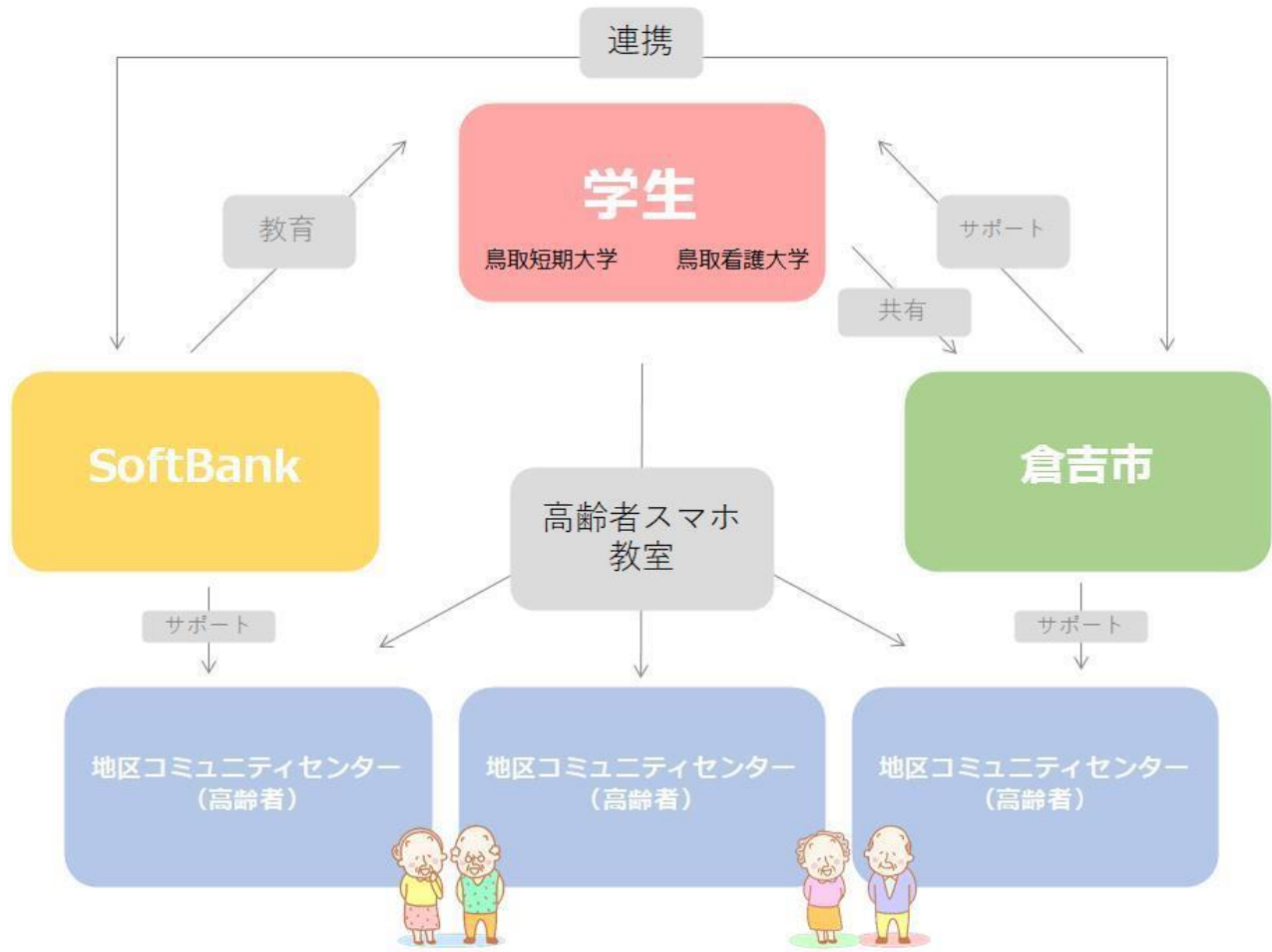


取組名称「高齢者スマホ教室」概要図（実装部門）



取組調書（実装部門）

|   |  |   |              |
|---|--|---|--------------|
| 地方公共団体名   | 倉吉市  |   |              |
| 取組名称  | 大学生による高齢者スマホ教室   |   |              |
| 連携自治体、企業、団体等  | 鳥取看護大学・鳥取短期大学、softbank(株)、各地区コミュニティセンター  |   |              |
| デジタルを活用した取組の概要<br>（デジタルを活用した取組の全体概要と解決する個別課題の具体的内容） | (種類) <small>(注)</small>  | ② | (左記が①の場合の分野) |
|   | <p><b>【デジタルを活用した取組の全体概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>倉吉市、softbank(株)、地元大学（鳥取短期大学・鳥取看護大学）が連携して学生デジタルリーダーを育成し、スマートフォンの操作に不安がある高齢者に対し「スマホ教室」を開催することにより、高齢者の情報格差是正と世代を越えた住み良いデジタル社会の形成を目指す。</li> </ul> <p><b>【実施に至る経緯・動機】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>倉吉市は人口に占める65歳以上の割合が34.8%と高く、高齢化が進行している。</li> <li>新型コロナウイルス感染症が拡大した令和2年以降、不要不急の外出を控えるよう呼びかけがなされ、高齢者の孤立が問題となっている。</li> <li>このような中、国においては、「デジタル田園都市国家構想」を掲げ、誰一人取り残されず全ての人がデジタル化のメリットを享受できる心豊かな暮らしを実現し、持続可能な経済社会を目指すとしている。</li> <li>しかし、本市が行った高齢者に対するスマートフォン操作のヒアリング調査（令和2年10月）では、操作に不安を持っていることや機能を使いこなせていない実態が明らかとなった。</li> <li>また、地元大学生にコロナ禍における生活実態のヒアリング調査を実施したところ、実家に帰省できなくなった学生も多くあり、また、オンラインによる帰省（Zoom等を使用したテレビ通話）も受入れ側の操作ができず困難であったことが判明した。また、調査のなかでは、帰省先の家族（高齢者）にスマートフォンの操作を教える難しさを痛感したとの意見もあった。</li> <li>このように、世代を越えたデジタル社会の実装は、コロナ禍のなかにあって切実なものとなっている。</li> <li>こうした現状を解消するため、事業者（softbank）、地元大学生、倉吉市が連携し、高齢者スマホ教室を実施することとした。</li> </ul> <p><b>【解決する課題の具体的内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業者（softbank）が大学生に対し、スマートフォン教室のノウハウを身に着ける研修を行ったのち、大学生が各地区コミュニティセンターにおいて、高齢者のスマートフォン教室を実施する。</li> </ul> |   |              |

|                                |  |
|--------------------------------|--|
|                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めは事業者が行う教室のサポーターとして参加し、複数回の経験を重ねた後、同事業者が行うデジタルリーダー研修を受講し、教室を開催する。</li> <li>・これにより、世代間のデジタルデバイドの解消を図る。</li> </ul>  |
| デジタルを活用した取組による成果（成果がわかるデータ・数値） | <p>スマホ教室後の満足度、習熟度アンケートの実施により、基礎的な操作の習熟度を調査する。</p> <p>【アウトプット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者スマホ教室の延べ参加者数</li> <li>・大学生の延べ参加者数（サポーター）</li> </ul> <p>【アウトカム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者スマホ教室の参加者の理解・習熟度</li> <li>・デジタルリーダーとなった大学生の数</li> </ul>   |
| 本取組の特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者が高齢者に操作を教えるスマホ教室とは違い、大学生が高齢者に対して操作を教えることで、世代間のデジタルデバイド解消が期待できる。</li> <li>・大学生は、高齢者に伝わる言葉の取得（「アプリ」などのカタカナ語の言い換えなど）や意思疎通の方法を学ぶことができ、スマホ教室を通じて社会経験を積むことができる。</li> <li>・高齢者は、スマホ操作を教わることで、遠方に住む自身の家族（子・孫など）やサークル活動の仲間などとデジタル技術を用いた交流（ZoomやLINE電話など）を行うことができるようになる。</li> <li>・工夫した点は、高齢者に伝わる言葉を大学生が考えるようにしたことであり、これにより、世代間のデジタルデバイドを大学生が実感できるようにした。</li> </ul> |
| 今後の展望                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年5月～ デジタルサポーター研修（大学生）</li> <li>・令和4年7月～ 地区コミュニティセンターにて教室開始</li> <li>・令和4年9月 デジタルリーダー研修（大学生）</li> </ul>  |

注： 以下の①または②のいずれかを選択

① デジタルの活用により、次の個別課題を実際に解決し、住民の暮らしの利便性と豊かさの向上や地域の産業振興につながっているもの。

（・医療 ・教育 ・子育て ・物流 ・交通 ・農林水産業 ・中小企業 ・観光 ・防災）

② 高齢者、障がい者などデジタルに不慣れな人々がデジタル機器・サービスの利用方法を学ぶことができる環境づくりを既に進めるなど、あらゆる人がデジタル化の恩恵を享受できる、「誰一人取り残されない」社会の実現に寄与しているもの。